

知って納得 あなたのマネープラン

クイズで磨く！
経済・
マネーセンス

お金の基本から話題
になっているトピッ
クスまで、クイズで
経済知識とマネーセ
ンスを磨きましょう。

なるほど！
マネープラン

今回のテーマは、
「年金はいくら受け
取れる？」です。

ライフイベント
などに
かかるお金

お金にまつわるデー
タを紹介します。今
回は、「住宅取得費
用」です。

クイズで磨く！
経済・
マネーセンス
マネークイズに挑戦！

Q1 2025年に、高齢者（65歳以上）一人を支える
現役世代（20～64歳）は何人になるでしょうか？

A 1.8人 B 4.2人 C 8.4人

Q2 50～69歳の男性・女性が、退職後の生活で懸念される
支出としてもっとも多く挙げたものは何でしょうか？

A 家賃 B 医療費 C 交際費・レジャー費

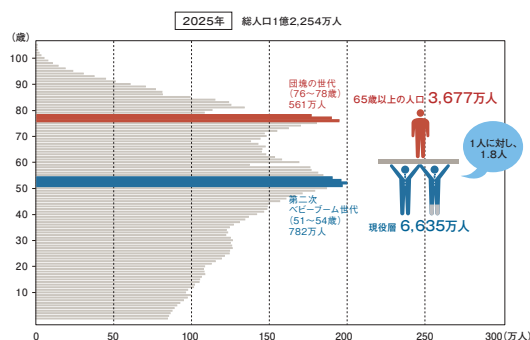
Q1
答え A▶

国立社会保障・人口問題研究所によると、2025年には日本の総人口が1億2,254万人に減ると推計されています。そのうち65歳以上の人口は3,677万人。それに対する20～64歳の現役層は6,635万人と、高齢者一人を1.8人の現役層が支えることになるとみられています。基礎年金の受給開始などにより社会保障給付は増大することが見込まれています。

Q2
答え B▶

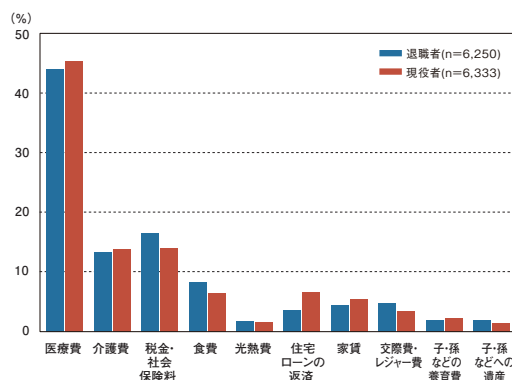
2017年にフィデリティ退職・投資教育研究所が、50～69歳の男性・女性12,000人に行ったアンケート調査によると、退職後の消費額は現役時代に比べ6割程度に低下することがわかっています。その消費のうち、退職後の生活で一番懸念される支出として多く挙げたのが「医療費」です。そのほか個人の努力だけでは抑制するのが難しい支出が懸念される傾向にあるのがみとれます。

■ 2025年における人口分布と65歳以上の人口に対する
20～64歳の現役層の割合（推計）



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所
「日本の将来推計人口（平成29年推計）：出生中位・死亡中位推計」より作成。

■ 退職後の生活で懸念する支出



(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所「資産活用世代のお金との向き合い方」(2017年8月)。

第1回 年金はいくら受け取れる？



「ねんきん定期便」で
見込み額がわかります。

1

標準的な年金額を覚えておきましょう

現在、受給開始年齢が段階的に65歳に引き上げられており、70歳まで引き上げることも検討されている公的年金。多くの方にとって公的年金に対する最大の関心事として挙げられるのが、「自分はどれくらいの年金を受け取れるか？」ということでしょう。

厚生労働省によると、平成30年度の厚生年金※（夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額）は、月額22万1,277円、年間で約266万円になる計算です。とはいえ、現役時代の給与水準や加入期間によって厚生年金の給付額は異なります。

平成30年度の厚生年金※

（夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額）は、

月額 **22万1,277円**、年間で**約266万円**
になる計算です。

自分の年金額を知るためにはどうすればいいのでしょうか？ まず大切なのが毎年誕生月に送られてくる「ねんきん定期便」をしっかりと見ること。年金の見込み額が記載されています。ただし、「ねんきん定期便」の記載内容は年代によって異なります。どのような点に注意しながら確認すればよいか、次ページにまとめました。

また、年金の受給額とともに、厚生年金を理解する上でもう1つ覚えておきたいのが年金を受給できる年齢です。自分はいつから受け取れるのか？ 次ページの世代別のアドバイスを読んで確かめてみましょう。



（年金額の出典）厚生労働省

※厚生年金は、夫が平均的収入（平均標準報酬（賞与含む月額換算）42.8万円）で40年間就業し、妻がその期間全て専業主婦であった世帯が年金を受け取り始める場合の給付水準

2

自分の年金を理解するための、世代別ポイント

「ねんきん定期便」の見方や受給開始年齢について年代別に見ていきましょう。

20～30代のポイント



この世代が「ねんきん定期便」の年金見込額を見る上で注意したいのが、20～30代の方はこれまでの加入実績に応じた年金額しか記載されていないこと。将来も含めた年金見込額は「ねんきんネット」で自分で試算する必要があります（ただし、初回および35歳・45歳・59歳時に送付される「ねんきん定期便」には、詳細な加入履歴と年金見込額が記載されています）。

また、厚生年金の受給開始年齢は現在、段階的に引き上げられており、現在の20～30代が受け取れるのは65歳から。だからこそ、早くから老後資金の準備をすることが大切です。

40代のポイント



40代が「ねんきん定期便」の見込み額を見る上で注意したいのが、20～30代と同じく、これまでの加入実績に応じた年金額しか記載されていないこと。将来も含めた年金見込額は「ねんきんネット」で自分で試算する必要があります（ただし、45歳・59歳時に送付される「ねんきん定期便」には、詳細な加入履歴と年金見込額が記載されています）。

また、厚生年金の受給開始年齢は現在、段階的に引き上げられており、現在の40代の方が受け取れるのは65歳になってから。退職から65歳までの「年金の空白時期」をどのように手当てするかは老後のマネープランを考える上で欠かせない問題です。退職まで約20年ある40代ですが、今から積立てなどを通して準備していきましょう。

50代のポイント

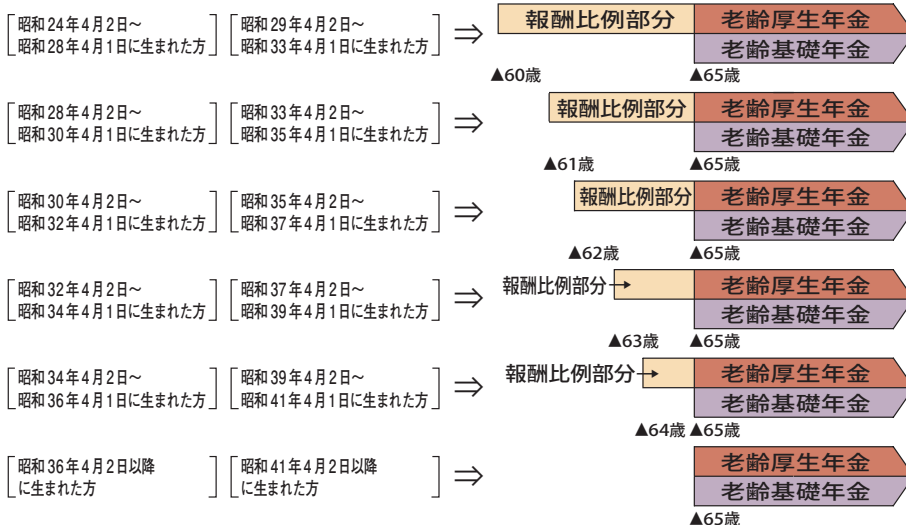


50代が「ねんきん定期便」を見る上で覚えておきたいのが、50歳以上の方は現在の年金に60歳まで継続加入したものとして算出した年金見込額が記載されていること。この金額を見れば、自分が将来受け取れるおおよその金額が分かります（59歳時に送付される「ねんきん定期便」には、より詳しい加入履歴と年金見込額が記載されています）。また、厚生年金の受給開始年齢は現在、段階的に引き上げられていますが、1961年4月1日以前に生まれた男性や、1966年4月1日以前に生まれた女性は、65歳を待たずに部分年金を受け取れます（下表参照）。自分が受け取れる年齢を確認しておくことが大切です。

■ 年齢・性別による年金の受取開始時期

男性の場合

女性の場合



現役時代の給与水準や加入期間、年代によって、厚生年金の金額や受取開始年齢は異なります。「ねんきん定期便」をしっかり確認しながら、自分のケースを考えてみましょう。



（出典）2018年2月時点の日本年金機構のホームページ

ライフイベント
などにか
かるお金

住宅取得費用

住宅取得費はどれくらい？

約 **2,700** 万円～約 **4,650** 万円

(出展) 住宅金融支援機構「2016年度フラット35利用者調査結果」

「人生で最も高い買い物」と言われる住宅。住宅取得にはどのくらいのお金が必要なのでしょう。表は住宅金融支援機構が実施した「2016年度フラット35利用者調査報告」の調査結果。種類別の購入価格の全国平均を見ると、土地付注文住宅＝3,954.8万円、建売住宅＝3,337.8万円、マンション＝4,266.7万円となっています。

とはいえ、地域による価格差が大きいのも住宅価格の特徴です。2,600万円台で取得している地域がある一方で、首都圏のマンションの平均購入額は4,700万円を超えています。

2016年度フラット35利用者調査報告

	土地付注文住宅	建売住宅	マンション
全国平均	3,954.8万円	3,337.8万円	4,266.7万円
首都圏	4,652.2万円	3,646.4万円	4,754.2万円
近畿圏	4,077.3万円	3,270.4万円	3,866.6万円
東海圏	4,122.0万円	2,955.5万円	3,620.9万円
その他地域	3,551.6万円	2,699.7万円	3,308.3万円

(出展) 住宅金融支援機構「2016年度フラット35利用者調査結果」

・当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、その正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
・当資料に記載の情報は作成日時点のものであり、市場の規模やその他の状況によって予告なく変更することがあります。
・当資料は投資教育の目的で提供されておりますので、許可無く対象とされていない第三者に開示することを禁じます。

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第388号
一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員
©フィデリティ投信株式会社
All Rights Reserved.
MKI180508-1 DC180508-1

※記載内容は一般的な説明を目的としており、前提条件によって異なることもありますので、実行にあたっては専門家にご相談ください。